



実践型教育科目

国際インターンシップ

担当教員 吉川 賢（岡山大学 地域総合研究センター）

林業関連企業で
社員に準じて働きながら、
また、UBC学生と共同生活を通して、
観察力、課題意識、判断力を養う。



林業や林産業で
就業実習



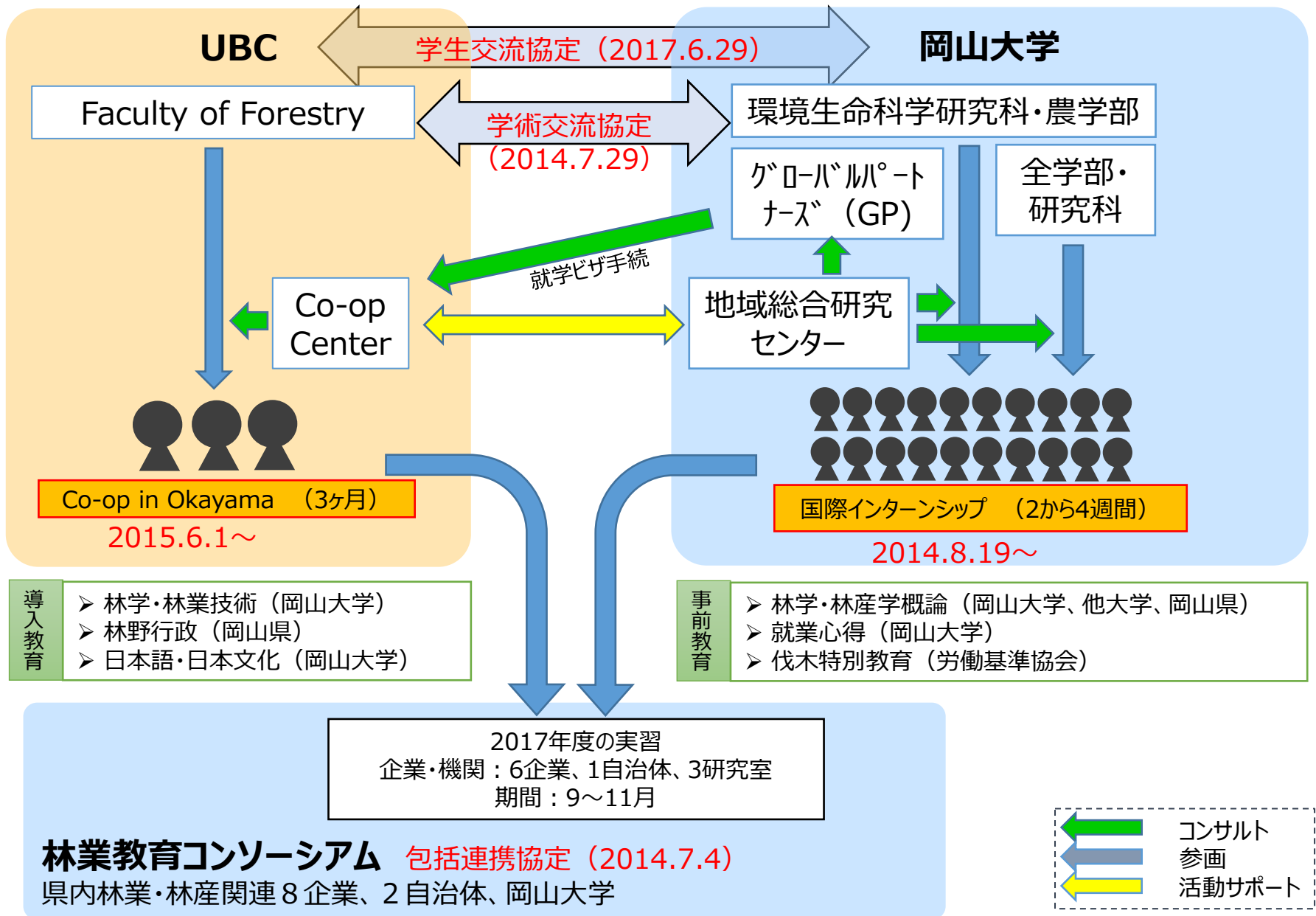
留学生との
共同生活



実践知の修得

その成果は、
社会への関心と学問的探究心を高め、
大学の学びをより深化させることに繋がる。

国際インターンシップとUBC Co-op in Okayamaの関係図



1. 「社会人」としての働きが、さらなる学びの糧に
社会人としての振る舞い方や考え方を学び、学問的探究心を持って企業活動への関わり方を考えることは、そのあとの大学での学びを深化させることにつながる。
2. 学習目標の達成度を自己評価し、大学での学びに生かす
実践知の獲得に向けた学習目標の達成度を就業実習中や就業後の振り返りで自己評価し、大学の学びにフィードバックさせることで、社会や労働をとの関わりを意識した大学での学びが実現できる。
3. カナダUBCの学生と寝食を共にしながらの就業体験
UBCの学生との英語でのコミュニケーションによる共同生活は異文化を知るまたとない機会となる。特に、就業する目的意識が明確な彼らの社会への関心や職業観を知ること、カナダと日本を比較し、学び合うことができる。
4. 森林資源の持続的利用をテーマに、社会と環境の関係を考える
さまざまな林業・林産業の活動を知ること、地球環境の保全に欠かせない森林の機能と特性を理解し、森林資源の持続的利用について考える機会となる。 ©Okayama University 2017

- 学部：教養教育科目（実践知）、研究科：特別開講科目
 - 全研究科、全学部、全学年が履修
- 実習効果を高めるためのきめ細かな教育
 - 事前教育（就労の基礎知識、専門外の学生への林学、林産学の概論、現場作業のための技術教習）
 - 成果発表会、事後教育（就労体験の今後の学習へのフィードバック）
- 大学と受入企業・機関が連携した教育
 - 受入先の特色を反映した就労内容
 - 活動日報による就労先との意見交換
 - 受入先での報告会、大学での成果発表会

